



70代女性はみんな 耳の聞こえに困っている

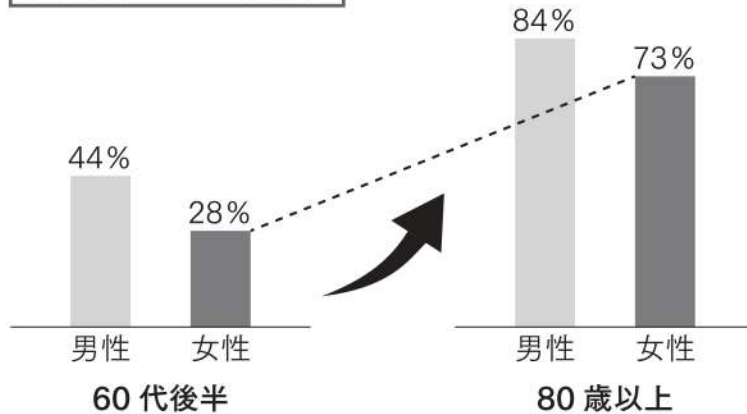
その耳鳴りや聞こえにくさ、あなただけではありません

年代に関係なく、誰にも耳鳴りや聞こえにくさ（難聴）に悩む可能性があります。その原因は、喫煙や高血圧、糖尿病、運動不足、肥満などの悪い生活習慣にあるほか、加齢も大きく関与しています。

人体のあらゆる細胞は年齢とともに老化し、さまざまな臓器の機能が低下します。耳もその例にもれず、老化に伴って耳鳴りや聞こえにくさのリスクが上昇します。65歳以上の耳鳴り、聞こえにくさは「加齢性（老人性）難聴」とされ、現在、日本では1千万人以上が罹患しており、65歳以上の25〜40%、75歳以上の40〜66%、85歳以上になると80%以上の人が耳の聞こえにくさに悩まされています。

女性の難聴は 60代後半から80代にかけて急激に増加

軽度難聴以上の有病率



国立長寿医療研究センターの研究結果（2008～2010年調査）をもとに作成

もともと、男性のほうが早い時期から耳鳴りや聞こえにくさを覚える傾向がありますが、65歳以降は女性の罹患率が増えていきます（上図参照）。そして、70歳以上になると程度の差こそあれ、多くの女性が耳にトラブルを抱えているのが現状です。

詳しくは後述しますが、加齢による聞こえにくさのおもな原因は、内耳の細胞（有毛細胞）数が減ってしまうことです。それに伴い、会話や音が徐々に聞こえづらくなります。高い音から順番に聞こえにくくなるのが特徴です。いかがでしょう、心当たりはありませんか？